

テニスプレーヤーにおける打球のばらつき情報の推定（研究の成果発表）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 浩之, 進矢, 正宏, 工藤, 和俊 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026649

テニスプレーヤーにおける打球のばらつき情報の推定

山本浩之, 進矢正宏, 工藤和俊 (東京大学大学院総合文化研究科)

本研究は, テニスにおける打球分散, 分散推定の熟達差を検討した. ミスによってポイントが決まることが多いとされるテニスにおいて, 打球落下位置という分散情報を推定する認知的能力は, 目標設定の最適化のために重要である. 参加者は, アマチュアテニスプレーヤー35名であった. 参加者は, 二変量正規分布を仮定したPC上のシミュレーションで, x, y 方向における標準偏差, 相関係数のパラメータ操作により, 打球分散の事前分布を推定した. 次に, 設置された的に向かってフォアハンドストロークを50球, 打球した. 全打球後, 事後分布を評価した. 打球落下位置座標は, 2次元DLT法を用いて算出した. 分析指標として, 打球のばらつきにおける的からの誤差距離および95%信頼楕円の離心率を用いた. 結果として, テニスプレーヤーは, 異方性な打球のばらつきを等方性傾向に推定する認知バイアスを持っていることが明らかになった.

<既発表情報>

Yamamoto, H., Shinya, M., Kudo, K., “Amateur tennis players prospectively and retrospectively have isotropy bias regardless of experienced levels,” The 44th Naito Conference, Hokkaido, Japan, October 2017. (ポスター口頭発表)